

チャペル通信

2014年

黒田官兵衛特集

91号

「如水」のもと「ヨシュア」?!

主(神)はヨシュアに仰せられた。「きょうから、わたしはイスラエル全体の前で、あなたを大いなる者としよう。それはわたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを、かれらが知るためである。

ヨシュア記3章7節

NHKドラマ軍師官兵衛も舞台は九州になりました。1582年本能寺の変以後官兵衛が才能を現したのは「大返し」でした。秀吉の天下統一が始まりました。九州遠征に秀吉を助ける軍師として官兵衛はその才能を發揮しました。

聖書での「大返し」はモーセによる「出エジプト」です。海が分かれて紅海を渡ったシーンは映画で良く知られています。この「出エジプト」の中でまさに軍人として活躍したのがヨシュアでした。モーセの後継者として、神様はヨシュアを祝福しました。(ヨシュア記3章7節)

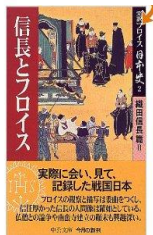
ヨシュアについて有名な話はゴスペルに歌われている「ジェリコの戦い」です。難攻不落の城を、神様の声に従い7度城の周りを巡って堅固な城壁を崩して勝利した話です。ヨシュアはポルトガル語読みでは「ジョズエ」で「ヤウエは救い」という意味です。それを新約時代ギリシャ語化したのが「イエス」です。聖書に出てくる軍人としてのジョズエに自分を重ね合わせて「如水」(じょすい)としたのかもしれませんが。官兵衛が隠居したのは1589年説と1593年説とがあります。

九州遠征中1587年(天正15年)秀吉は突如「伴天連追放令」を出します。九州攻めのさなか、島津氏に攻められた大友宗麟のもとにいた伴天連や日本人修道士たちを臼杵城から下関に移動するのを官兵衛は導き、舟を用意して、脱出させます。モーセが紅海をわたり、ヨシュアがヨルダン川を渡った時のように。

人物紹介

ルイス・フロイス

1532年リスボン生まれ、16歳でイエズス会に入り、ゴアで養成中ザビエルやヤジロウと出会っています。1563年31歳で、長崎横瀬浦に上陸し日本宣教に従事しました。1565年に三好党に追われ、摂津・堺に入りました。ドラマで20歳の官兵衛が出会った宣教師はフロイスでした。イエズス会での任務が宣教の記録作りとなったので記録をバチカンに送りました。それが「日本史」です。1593年までの記録の写本があります。1597年に65歳で没しました。



左の本を希望者にプレゼントします。

応募券をハガキに貼り

住所・氏名 電話番号を明記のうえ下記にお送りください。

定期集会

(日) 礼拝と学び 10:30~12:10

教会学校 13:30~14:30

夕 拝 19:30~

(水) 聖書の学びと祈禱会 19:30~

(金) 聖書の学びと祈禱会 10:00~



〒213-0023 川崎市高津区子母口776

編集 日本同盟

子母口キリスト教会

発行 基督教団

e-mail shibokuchi@church.jp

牧師 小岩井 信 http://shibokuchi.church.jp/

電話 044-766-0181 F A X 044-766-2157



黒田官兵衛（如水）を巡る

官兵衛の伝道活動 山口（毛利氏）・豊後（大友氏）

受洗の翌年から秀吉の九州攻めが始まり、官兵衛は軍監として、山口に入りました。ザビエルの宣教で勢いがあつた山口も大内氏が毛利に負けてからキリシタンの勢力は落ちていましたので、宣教師のコエリヨは**官兵衛**に期待しました。**官兵衛は毛利氏に教会堂の用地を提供させています。**用地提供のお礼に宣教師のコエリヨを伴い小早川隆景邸に行きそこで多くの武士達に**天地の創造主であるデウスと人類の贖い主は唯一で、御一方しかありえない**と説教を聞かせました。官兵衛は下関に司祭の為の館をも建設しているのです。この館に、豊後で活動出来なくなった伴天連や修道士らを脱出させたのでした。



官兵衛の夢を破った

秀吉の伴天連追放令

「予はこのたびの戦で成功したならば、関白がその功績によって一国の主に取り立ててくれる事をデウスにおいて期待している。予はその国がすべてキリシタンのみから成り立つよう定めており…フロイス日本史11)」と述べた**官兵衛**は1587年**伴天連追放令**を出した秀吉に猛然と抗議しました。その抗議に怒った秀吉は、九州平定に多大な功績を挙げた**官兵衛**に対して領地は微々たるものとなったのです。官兵衛が隠居するきっかけともなったのでした。

九州のキリシタン大名 大友宗麟と官兵衛

1551年に府内に来たザビエルに謁見したのが**大友宗麟（義鎮）**でした。南蛮文化を取り入れ、大砲などの武器をもたらすポルトガルとの貿易に熱心でした。

宗麟は1578年に、カブラルから受洗し、フランシスコと名乗ります。その年隠居し家督を義統に譲りました。

官兵衛は義統にキリスト教を伝え、1587年のイースターに義統は家族で受洗しました。この日には**官兵衛**の子長

政・弟黒田直之・毛利秀包・熊谷元直・岐部左近らが受洗しました。



大友宗麟

キリシタンの世界（九州編） その2

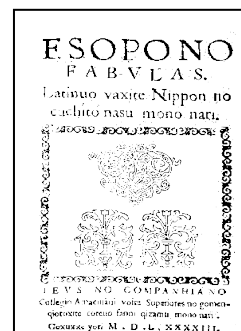
ローマに行った少年 天正少年使節

1582年 有馬晴信・大村純忠・大友宗麟の名代として、原マルチノ。千々岩ミゲル。中浦ミゲル・伊東マンショの4人の少年がバチカンに派遣され、グレゴリウス13世と謁見しています。



彼らが持ち帰ったものでその後の日本文化に寄与した物にグーテンブルクの印刷機があります。それによって、イソップ物語や平家物語などが印刷されました、これらは主に日本語を習う宣教師のために印刷されたそうですが、イソップの寓話は子供の心の教育にも影響をあたえたとおもいます。

彼らが帰国した1590年はすでに追放令が出されており、秀吉への謁見は困難でしたが**官兵衛が再三秀吉に取り次ぎ実現しました。**



キリシタン弾圧の象徴 26聖人の殉教

イエズス会が穏健な伝道をしていたのに対してあとから来日したフランシスコ会は強硬な伝道方針であったので、サン・フィレペ号事件後秀吉は再度「禁教令」を出しました。

それにより、大阪京都のフランシスコ会宣教師と信者24人が**京都・大阪で捕縛**され、京都の一条戻り橋で耳をそがれ、寒中裸足で京都から長崎まで引いていかれ、途中世話をした信者2人を加えた26人は、ゴルゴダの丘に似ているという西坂の丘で、1597年、4000人の見物人が見る中で、脇腹をやりで突かれ、刑死されました。

12才のルドビコ茨木は棄教すれば、助命すると勧められたのに対し「**この世のつかの間の命と、永遠の命を取り替えることは出来ない**」と毅然と長崎奉行の弟の半沢半三郎の申し出を断ったと、フロイスの報告書には記されています。

